

# e-dream-s 通信

No. 104 発行：2009年11月8日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

皆さま、11月号をお届けします。今回は、現在進行中の「カンボジア・プロジェクト」についての報告に加え、昨日（11月7日）届きました、CamTESOL2010での発表決定！の嬉しいお知らせも掲載しています。どうぞお楽しみください！

## 目次

- |                                       |       |       |
|---------------------------------------|-------|-------|
| 1. 動き出す「冬」                            | 中川 房代 | p. 2  |
| 2. 自分が一番力を出せる時                        | 辻 荘一  | p. 4  |
| 3. 久しぶりのアメリカ日記：八百屋の店先（3）New York City | 井川 好二 | p. 5  |
| 4. 紅葉のポートランドで                         | 塚本 美紀 | p. 11 |



アンコールホテル（カンボジア・シェムリアップ）

（撮影：Ryoji 2001.1）

# 動き出す「冬」

中川 房代

紅葉も始まり秋も後半かと思っていたら、何と今日11月7日は立冬。もう冬なのである。動物たちはそろそろ本格的な冬眠や冬ごもりのために支度を始める時期だが、e-dream-sの「冬」は、「カンボジア・プロジェクト」に向けて動き出す時、忙しくなりそうである。

この「冬」は、2本の柱を中心に活動を進めていきたい。

1つは、来年2月末カンボジア・プノンペンで開かれるCamTESOLカンファレンス。カンファレンスでの発表には、毎年、カンボジア国内は勿論、タイやベトナム、オーストラリア、日本などから多数の申し込みがあり、CamTESOL事務局による選考が行われる。

ACROSS・e-dream-sは、初めて参加した「CamTESOL 2008」で2本、翌年の「CamTESOL 2009」では3本の発表を行ってきており、今回も3本の発表をすべく準備を行ってきた。9月末に発表内容の要旨を書いた応募用紙を送り、先週末に2本の採用通知が届いた。あと1本の連絡がなかなか入らず、やきもきもしたが、今日、残りの1本の採用通知が届き、これで全3本がカンファレンスで発表できることとなり、ほっとしている。これから、2月のカンファレンスに向け、航空券・ホテルの予約などと共に、発表内容の準備を始めていきたい。

## 【発表のタイトルと発表者（敬称略）】

- \* "Breathe, one, two, three. - How to Produce English Sounds"  
(Phonetic training for non-native teachers of English) 中川、岡田
  
- \* "Say It With Rhythm"  
(Phonetic training for non-native teachers of English) 河野、岡崎
  
- \* "Reasons to Teach English"  
(Initial Career Motivation of English Teachers) 井川、辻

もう1つは、「カンボジア・プロジェクト」に何が必要かをリサーチする活動である。私たちが「カンボジア・プロジェクト」を始めるにあたって、カンボジアの若者が何を考え、カンボジア社会に何が必要とされているのか、私たちにできることは何なのか、といったリサーチ活動始める。これまでもカンボジアを訪問したり、ソコムさん、ソパさんなどカンボジアの人たちと交流を持ち話もしてきたが、それをより組織的に行うのである。

今回、ソコムさん・ソパさんを通じて、彼女たちの所属する「在日カンボジア留学生協会・東京<sup>1</sup>」の会

<sup>1</sup> 在日カンボジア留学生協会・東京

長 Mr. Ear Chariya、「在日カンボジア留学生協会・名古屋<sup>2</sup>」の会長 Mr. Senera とコンタクトをとり、11月中下旬に、東京と名古屋で、それぞれ私たちと会って話をする機会を持ってくださることになった。東京は岡田理事を中心に東京の会員で、名古屋は私を中心に大阪の会員が行って話をしたいと考えている。多くの会員の皆さんの参加を期待したい。また、他にもカンボジアでの国際協力を行っている個人、団体とのミーティングを設定し、リサーチ活動も充実させていきたいと考えている。

【在日カンボジア留学生協会との懇談】

東京：11月15日（日）17時～ 池袋

名古屋：11月29日（日）13時～ 名古屋

迎える2010年の年明け1月4日には第33回理事会を開催し、この「冬」の2本柱の報告をする予定である。学校は学期末、年末年始、と忙しい時期となるが、私たちの「夢」の実現のために、力を尽くしていきましょう！

Dear Ms Fusayo Nakagawa & Ms Kaoru Okada


On behalf of the 2010 CamTESOL Program Committee, I would formally like to invite you to present your paper at the forthcoming CamTESOL conference on 27-28 February 2010. The 2010 conference will be held at the National Institute of Education (NIE), located in the city of Phnom Penh.

Your paper's title is:  
**Breathe, one, two, three. - How to Produce English Sounds**

The stream is:  
**Teaching Speaking**


Should you have any queries regarding this invitation, please address them to myself. IDP is supporting this conference, although the organisation of the conference includes participation by a wide variety of local institutions, including the Ministry of Education, Youth and Sport. For more information on the conference itself and those involved in organising it, please go to [www.camtesol.org](http://www.camtesol.org)

Best wishes,

  
Paul Mahony  
Conference Convenor (2010 CamTESOL Conference)  
and Country Director for Cambodia (IDP Education)

23 / 10 / 09

YOUR FIRST CHOICE GLOBAL PARTNER IN EDUCATION AND DEVELOPMENT

  
IDP Education  
Australia (Cambodia)  
No. 46 Street 214  
Sangkat Boeung Raing  
Khan Daun Penh  
Phnom Penh P.O.Box 860  
Cambodia  
Tel: 855 23 212 113  
Fax: 855 23 426 608  
info@phnompenh.idp.com

IDP Education  
Australia Limited  
ABN 63 008 597 831  
Canberra  
1 Gells Court  
Deakin ACT 2600  
Postal Address  
GPO Box 2006  
Canberra ACT 2601  
Australia  
Tel: 61 2 6285 8222  
Fax: 61 2 6285 3036  
info@idp.com  
www.idp.com

採用通知と一緒に届いた CamTESOL へ招待状（中川・岡田組のもの）

<sup>2</sup> 在日カンボジア留学生協会・名古屋

# 自分が一番力を出せる時

辻 莊一

医者に運動不足だと言われて久しい。確かに運動不足だ。それは分かっている。しかし趣味のスポーツなどというものもないし、毎朝ジョギングなんて出来そうもない。唯一の運動は、徒歩通勤（しかも毎日ではない）と職場で歩き回る事だ。当然、これだけでは弛んだ体が引き締まるわけもなく、体脂肪率が上がっている事を実感しつつある毎日である。

元来怠け者で、いくつかある自分の為に頑張るということができない。自分の為だということがいくら納得出来ても、他になにが理由がないとやる気にならない質である。

私は一応、英語とコンピュータができることになっているのだが、これも趣味や自己啓発の為に始めたわけではない。

英語は、大学卒業後、教員採用試験のために勉強し始めたし、アクロスに入ったのもこんな発音では生徒の前では恥ずかしいというある意味ネガティブな理由だ。その後も英語の勉強が続けられているのは、ただひたすらそれが生徒の為にあり、仕事だからである。

コンピュータ関係の技能も、DTP（コンピュータによる本作り）はアクロスの教科書作りで始めたし、フォトショップも学校公開用ポスターを作るために覚えた。音声編集はリスニング教材を作るため、ビデオ編集も担任している生徒に見せてやる為である。

世の中色々な人がいる。自分が好きで好きで堪らなくてやっている事が素晴らしい成果をあげたり、自己啓発の為に始めたことがプロのレベルにまで達する事もあるとは思いますが、私はどうもそちらのグループには属さないようである。ただ、私が少数派であるとも思わない。自分の能力を十分に発揮するためには、自分のやっている事が人のためになっている、あるいはそれを自分がやらなければ迷惑する人がいるという動機づけが必要な人のほうがそうでない人より多いのではないかと思う。

そういう意味でカンボジアプロジェクトの成否は、やろうとしている事がカンボジアの人々にとってよいと私たちがどれだけ確信出来るかにかかっているとと言えるだろう。

## 久しぶりのアメリカ日記：八百屋の店先（3）

### New York City

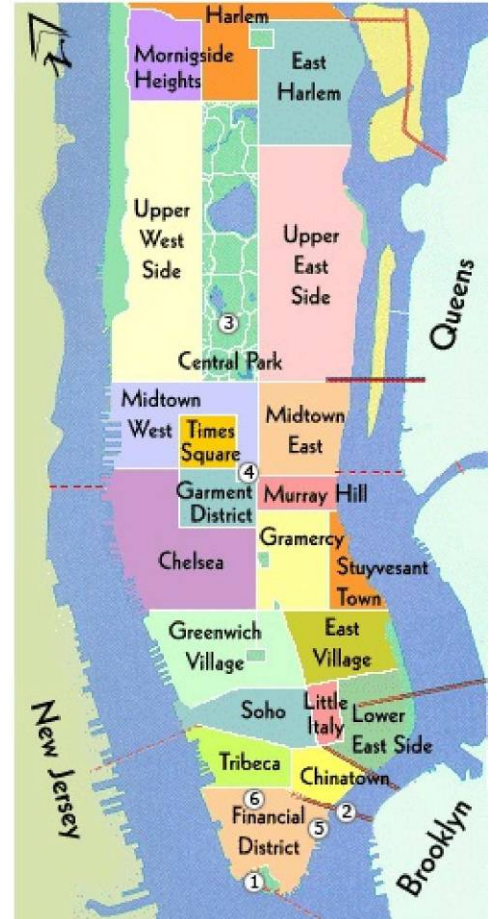
井川 好二

8月8日（土）

砂漠の街ソルト・レーク・シティーから、東海岸のニューヨークへ。久しぶりのアメリカ日記も、いよいよ大詰め、ニューヨーク・マンハッタンの巻である。

今回のアメリカ行では、ほとんどがユナイテッド航空を使用したけど、このソルト・レーク=ニューヨーク間だけは、ユナイテッド便がとれず、デルタ航空になった。しかし、デルタの方が、ユナイテッドより、サービスがずいぶん良いように思えるのは、単に気の所為？あるいは、経営が青息吐息のユナイテッドと、順調なデルタの差なのかも知れない。

フライトは定刻通りに出発、予定より数分早く、ニューヨークの John F. ケネディ国際空港<sup>3</sup>に到着した。飛行時間は約4時間。



マンハッタン<sup>4</sup>

やれやれと思っていると、乗客が飛行機から空港ビルへ移動するためのJetway<sup>5</sup>を、機体とうまく接続できず、いつまでたってもドアが開かない。やっと開いて外に出られたのは、着陸から30分後。何回も飛行機には乗っているが、こんなことは初めて。

その後、預けた荷物が、なかなかでてこなくて、どんどん時間が経ち、シャトルバスで、マンハッタンのマディソン・スクエア・ガーデン近くのホテルへ着いたのは、午後6時30分。ソルト・レークとの時差は2時間。サマータイムでまだ明るいけど、日の出の頃にユタを発ったこの日の移動に、丸1日かかった感じ。アメリカの広さを、今更ながら実感させられる一日となった。疲れた。

<sup>3</sup> John F. Kennedy Airport ケネディ空港《New York 市にある；単に Kennedy とも JFK ともいう》.[ジーニアス英和大辞典 株式会社大修館書店]

<sup>4</sup> [http://www.nyctourist.com/images/maps/map\\_hoods4](http://www.nyctourist.com/images/maps/map_hoods4).

<sup>5</sup> jetway | 'jet, wā| noun trademark (in the UK) a portable bridge put against an aircraft door to allow passengers to embark or disembark. (OAD)



*Spicy & Sour Soup (Photo by Koji Igawa, August 2009)*

夕食は、ホテルの近くで見つけた「こましな」中華料理店“Ginger House”へ。これが、大正解。Spicy & Sour Soup (酸辣湯<sup>6</sup>) と牛肉とブロッコリの炒めもの、が美味かった。特に、四川風の酸辣湯は、酢の酸味と胡椒の辛さが美味くて、疲れたよく身体に効く。かなりいけていると思うのだが・・・ビールは勿論、青島啤酒<sup>7</sup>。

しかし、このマンハッタンの美味しい酸辣湯は、「美味しい中華料理は、中国の外にある」、という私の大胆かつ、偏見に満ちた仮説を、またまた補強する結果となってしまった。この仮説が真ではないことを祈りつつ、何度も中国へ足を運んだのだが、その結果、いつも仮説を補強することとなったのも、今思い出されて口惜しい。

とはいえ、今回の出張では、サンフランシスコ、ソルト・レーク・シティ、ニューヨークとそれぞれの街で中華を食べたのだが、どれもそれなりに美味いと思ってしまったのは、決して私の舌が、「アメリカ化」しているからではないことは、ここで断言しておくことが肝要であろう。

---

<sup>6</sup>スアンラータン 4 【酸辣湯】 [補説] 中国語 中国、四川料理の一。酸味と辛味をきかせたとろみのあるスープ。

<sup>7</sup> 青島ビール株式会社 (ちんたおびーるかぶしきこんす) [日本大百科全書 (小学館)] 中国のビール会社。英語では Tsingtao Brewery Co. Ltd. と表記する。中国山東省の港湾都市である青島が本拠地。中国資本のビール会社のなかでは販売と輸出で業界の首位にたつ。青島ビール第一工場、第二工場、第四工場、楊州 (ようしゅう) ビール工場、麦芽工場、青島ビール実業開発公司、青島ビール広発実業公司を所有している。

<http://100.yahoo.co.jp/detail/%E9%9D%92%E5%B3%B6%E3%83%93%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E5%85%AC%E5%8F%B8/>

ちなみに、ホテルは、マンハッタンのチェルシー(Chelsea)地区<sup>8</sup>にある。ペン・ステーションやマディソン・スクエア・ガーデンがあるエリア。ゲイ<sup>9</sup>が多く住む 8th Ave. などもあり、最近、ニューヨークでは、ちょっとおしゃれな地区として注目されている。

ゲイが多く住むエリアが、なぜおしゃれなのか、あるいは、一般にゲイの方が、なぜストレート<sup>10</sup>より、おしゃれなのかについては、次の論考の機会を待ちたい。

8月9日(日)

Penn Station から Amtrak に乗り、フィラデルフィアの 30 番街駅で降りる。約 1 時間。ニュージャージーに住む古い友人に逢う為である。今回のアメリカ行では、各地で友人との再会を織り交ぜていて、楽しい旅になった。

トヨタ車の日本名「bB」のアメリカ版、“Scion”の運転席に乗っているのは、旧友の Erik Mollenhaur。ちなみに、scion<sup>11</sup>とは、「若枝」のこと。

---

<sup>8</sup> チェルシー (ニューヨーク) 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』地区西端のハドソン川にある複合施設、「チェルシー・ピア」

チェルシー (Chelsea) は、アメリカ合衆国、ニューヨーク市マンハッタンの南西部に位置する地区の名称である。マンハッタンを東西に走る西 23 丁目の通り (West 23rd St.) を中心に、東端は五番街 (5th Ave.) から、西端はハドソン川までの一帯を指す。南端には、ミート・パッキング・ディストリクト (Meat Packing District) と呼ばれる地域がある。さまざまなギャラリーが集まる最新アートの発信地でもある。ほかのマンハッタン内とは違うのんびりとした感じに人気があると言われる。もとは 19 世紀にニューヨークの郊外住宅地として開発された高級な地区だったが、ニューヨークの爆発的發展のため都市に飲み込まれ、20 世紀前半にはアイルランド系移民や付近の埠頭・倉庫で働く港湾労働者の多い地区となった。さびれていたチェルシーは、高級化し地価の上昇したソーホーからギャラリーが移転することで、1990 年代以降ニューヨークのアートの中心となった。実際には、居住者の人種構成が非常に多様であるうえ、倉庫・流通地区として人通りの少ない区域もあり、地区内においても通りや場所により全く異なる様相を呈している。地区内の八番街 (8th Ave.) は、マンハッタンで最も活気のあるゲイ・ストリートのひとつである。地域内東端の五番街にはフラットアイアンビルのような観光名所があり、北東に隣接するミッドタウンのエンパイアステートビルディングからも至近である。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/チェルシー\\_\(ニューヨーク\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/チェルシー_(ニューヨーク))

<sup>9</sup> *Gay* meaning ‘homosexual,’ dating back to the 1930s (if not earlier), became established in the 1960s as the term preferred by homosexual men to describe themselves. It is now the standard accepted term throughout the English-speaking world. As a result, the centuries-old other senses of *gay* meaning either ‘carefree’ or ‘bright and showy,’ once common in speech and literature, are much less frequent. The word *gay* cannot be readily used unselfconsciously today in these older senses without sounding old-fashioned or arousing a sense of double entendre, despite concerted attempts by some to keep them alive. *Gay* in its modern sense typically refers to men (*lesbian* being the standard term for homosexual women), but in some contexts it can be used of both men and women. (OAD)

<sup>10</sup> ((俗))同性愛 [ホモセクシャル] でない; 麻薬をやっていない. [プログレッシブ英和中辞典 提供: JapanKnowledge]

<sup>11</sup> (also cion) a young shoot or twig of a plant, esp. one cut for grafting or rooting. (OAD)



トヨタ車の狭い車内にやや窮屈に収まる長身のエリック  
(Photo by Koji Igawa, August 2009)

ニュージャージー州の教育研究所のディレクターである。小さな日本車では、長身のエリックには少し窮屈そうだが、理科系の教員だった彼にとって、エコで考えても、経済性で考えても、日本車がベスト。以前の車は、SUBARU だった。

エリックとフィラデルフィア歴史保存地区にある Hard Rock Café<sup>12</sup>に入る。インディペンデンスホールや、自由の鐘などがあるエリアである。中年男性二人で若いお上りさんのように、特にこの Hard Rock Café に行きたかった訳ではないが、ビールが飲めそうな店が近くにここしかなかったのが、大きな理由。

久しぶりの再会に、最近のお互いの情報交換。見るからにゲイのウェイターが運んで来たビールを飲みながら、子供の結婚、就職、家族の病気などの四方山話をする。

時間があまりないことを意識してか、エリックは、自分が最近取り組んでいるプロジェクトの話を一気呵成に話す。こっちもカンボジアのことを持ち出すが、お互いどこまで理解し合えたのかは疑問。

フィラに今度行く時には、もっとゆっくり時間をかけるべきだろう。

8月10日（月）

ニューヨークは変化し続ける大都会。いつ行っても新しい発見が待っている。今回ホテルを取ったチェルシー地区は、今まで余り馴染みのないエリア。しかし、ここもまた面白い。マンハッタンの魅力は尽きないのである。

マイケル・フランクス曲に、”Down in Brazil” (1977) (「ブラジルじゃね」って感じか) と云うタイトルの曲があって、その中に、

---

<sup>12</sup> Hard Rock Cafe /ハードロックカフェ 《London にある内装も音楽もロック一色のカフェレストラン; 1971 年開店; New York, Los Angeles, 東京などにも出店》[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]



Then all those *cafe ole* girls in high heel shoes  
will really cure your blues<sup>13</sup>



NY チェルシーのカフェオレ・ガール(photo by Koji Igawa, August 2009)

という歌詞のカフェオレ・ガールを思い出す写真の女性。どういうわけかルートビア<sup>14</sup>を、ストローで飲んでいる。

マンハッタンのチェルシーにあるイタリアン・レストランで見かけたのだが、背が高いグラマラスなラテン系で、見た途端に”Down in Brazil”を思い出し、ブラジル女性と勝手に決めつけている。残念ながらこの写真ではわからないが、彼女のドレス、背中がない backless なのである。

ニューヨークとブラジルは、私の中では結構繋がっている。以前、戯れにブラジルへ旅行する計画を立てていた時、ニューヨークからリオデジャネイロへのフライトがたくさんあるのがわかったし、Truman Capote<sup>15</sup>の “Breakfast at Tiffany’s”<sup>16</sup>の最後では、マンハッタんに住む女性主人公の Holly Golightly が、マフィアとの関係を探査されて、ブラジルへ高飛びするプロットになっている。

とは云うものの、ニューヨーク好きの Holly は、暮れなずむ Brooklyn 橋<sup>17</sup>の上から、行き交う船を見ながら、こんなことを云ってる。

‘Years from now, years and years, one of those ships will bring me back, me and my nine Brazilian brats.

<sup>13</sup> [http://www.lyricsmode.com/lyrics/m/michael\\_franks/down\\_in\\_brazil.html](http://www.lyricsmode.com/lyrics/m/michael_franks/down_in_brazil.html)

<sup>14</sup> ルートビア (root beer) とは、アルコールを含まない炭酸飲料の一種。商品としてのルートビアは、アメリカ合衆国において 19 世紀中頃に生まれたとされる。バニラや、桜などの樹皮、リコリス (甘草の一種) の根、サルサパリラ (ユリ科の植物) の根、ナツメグ、アニス、糖蜜などのブレンドにより作られる。使用原料やその配分は厳密に決まっておらず、銘柄によって様々なアレンジが施されている。  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%93%E3%82%A2>

<sup>15</sup> カポーティ 【Truman Capote】(1924-1984) アメリカの小説家。幻想的・都会的・抒情的な作品を書く。また、「冷血」ではノンフィクション-ノベルの先鞭をつける。多彩な作風を示したが、孤独感・虚無感に貫かれている。他に「遠い声、遠い部屋」「ティファニーで朝食を」など。[大辞林 提供：三省堂]

<sup>16</sup> Capote, T. (1958). *Breakfast at Tiffany’s*. Harmondsworth, England: Penguin Books.

<sup>17</sup> Brooklyn Bridge: a suspension bridge between southern Manhattan and northern Brooklyn (on Long Island) in New York City. Constructed 1869-1883, it was one of the period’s engineering marvels and is celebrated in art and

Because yes, they must see this, these lights, the river - I love New York... (p. 78)

「夜でも明るいこの街を、この河を、見なきゃ。ニューヨーク大好き！」全く同感である。

司馬遼太郎が、マンハッタンの街をヴァンで往きながら、見かけたアメリカ人の顔の雑多さに感動して云った「八百屋の店先」と云う言葉に触発されて書き綴ってきた日記の最後は、私が勝手にジャマイカ系と決めつけている、泊まっていたチェルシーのホテルのフロントにたつナイトマネージャー。

気の良い兄ちゃんである。名前も聞きそびれたが、写真だけはちゃっかり撮らせてもらった。ヘアスタイルがなんともレゲエ<sup>18</sup>。



私が勝手にジャマイカ系と決めつけているホテルのナイトマネージャー

その翌朝早くホテルを出て、ケネディ空港でチェックイン。サンフランシスコで乗り換えて、翌日の午後、関空へ帰ってきた。8月12日(水)である。長いようで、短い旅。

しかも、アメリカはいつも新しい。今度はいつ行こう。(November 7, 2009)

---

literature. (OAD)

<sup>18</sup> レゲエ **【reggae】** ジャマイカのポピュラー音楽。独特のアクセントをもつオフビートと、メッセージ性の強い歌詞に特徴がある。1970年代に世界のポピュラーミュージックに大きな影響を与えた。→スカ大辞泉

# 紅葉のポートランドで

塚本美紀



米国オレゴン州のポートランドに到着したのは10月の最後の日だった。ダウンタウンにあるホテルでチェックインを済ませるとすぐに街に出た。きりりとした空気が気持ちいい。街路樹の紅葉が盛りで、歩いていると時々息をのむほど美しい木に出会う。ちょうどその日はハロウィンで、ポートランド州立大学の構内で毎週土曜日に開かれているファーマーズマーケットには、魔女の帽子をかぶった母親が、スーパーマンのコスチュームを着た子供の手をひいて歩いたりしている。

ポートランドへ来たのは、持続可能な開発のための教育についてのカンファレンスに出席するためだ。環境、異文化理解、人権などさまざまなテーマでそれぞれが実践してきたことについて発表し、話し合う。これまでテレビ会議などで交流のあった人たちも参加していて、彼らとの再会も楽しみにして参加した。

ファーマーズマーケットの中には、野菜、果物、きのこ、ナッツ、チーズ、ワインと地元のいろいろな産物が並んでいる。ポートランドでは、地産地消に熱心で、このようなマーケットは人気があるようだ。地元のを消費すれば、輸送のためにエネルギーを使わずにすみ、環境にもやさしい。学校の給食もなるべく地元の食材を使うようにしているという。それが地域の産業を支えることにもなるようだ。

この美しい街で1週間にわたって行われたカンファレンスで、懐かしい友と再会し、新しい友人と出会い、そして世界が持続的に発展していけるような取り組みについて学んだ。教育でそれを支える、あるいは導いていくためには、私たちも持続的に学び続けていく必要がある。そのために何ができるか、これからしっかり考え、取り組んでいきたい。

<編集後記>

まず、CamTESOL2010 での 3 本の発表決定の知らせを、会員全員で喜びたいと思います。さまざまな努力と行動により、e-dream-s とカンボジアを結ぶ絆がより強いものになっていることを実感しました。「夢」の実現にむけて、多くの情報を会員で共有して行動し、「カンボジア・プロジェクト」を成功させましょう。

(道面和枝)